

自己と他者の知識の獲得と言語発達との関連性

特に12か月と18か月のデータを中心に

常田 秀子 ・ 遠藤 利彦 ・ 無藤 隆

(東洋大学) (聖心女子大学) (お茶の水女子大学)

《目的》 我々はこれまでに、乳幼児の心理社会的な世界の理解の様相を知るために、乳幼児の自他に関する知識と心理社会的語彙の獲得との関連について検討してきた(遠藤、常田、無藤 1995他)。本研究の目的は、それらの心理社会的な要素の獲得が、他者との日常的な相互作用によってどのように規定され、またどのように影響を与えているかについて検討することである。

《方法》 34組の母子(子どもは男児19名、女児15名)に対して、子どもが12か月と18か月時に被験者宅を訪問し、以下の資料を収集した。
 ①自己および他者(母親)に関する動作主性(agency)と客観的特徴(featural recognition)に関する子どもの知識のレベル:Pippら(1987)を一部改作した手続きを用いて測定した。動作主性については、象徴遊びを模したテスト課題場面における、子どもの自己および母親に対する行動の正確性や複雑性等によって、客観的特徴については、自己および母親の名前や所有物などに関する知識に基づいて測定した。
 ②心的状態や社会的関係(特に生理、知覚、認知、欲求、感情、関係など)に関する子どもの理解語彙、産出語彙:あらかじめ作成した心理社会的語のリストの各々の語について、語彙理解が成立していると判断した根拠や、語が産出される状況に関する母親からの聞きとりに基づいて、筆者らが理解、産出の成否を判定した。
 ③母子遊び場面における母親の子どもからの働きかけに対する応答性および明確化要求、子どもの母親からの働きかけに対する応答性(18か月のみ):実験者が用意したままごと道具を用いた母子遊び場面をVTR収録、そこから作成した約5分間分の逐語記録にもとづき、母子各々の、相手からの働きかけ総数に対する応答頻度および応答率、やりとり系列の冒頭の働きかけに対する応答頻度及び応答率を産出した。また、母親の明確化要求が見られたやりとり系列の頻度、明確化要求に先行する子どもの意図の種類(要求、叙述)、後続する子どもの修復の有無に基づいて、それぞれの明確化要求の頻度を算出した。

《結果と考察》 ①母親の応答性と子どもの自他理解および心理社会的語彙獲得との関連:18か月時において、母親の応答性と子どもの自他理解、語彙獲得との間に有意な関連は見いだされなかった。ただし12か月時の他者(母親)の動作主性についての子の理解と18か月時の母の応答性の間に有意な相関が($r=.43, p<.05$)、12か月時の心的社会的産出語彙数と18か月時の母の応答性の間に有意な相関($r=.62, p<.01$)が見いだされた。早期に高レベルの動作主性の理解を示したり、心理社会的語彙が多い子どもは、母親を相互作用の中に効率的に引き込み、より応答的な母親の関わりを引き出すというように、母子の相互作用スタイルに影響を及ぼしているのかもしれない。

②子どもの自他理解および心理社会的語彙と母子遊び場面における子どもの応答性との関連:18か月において、子どもの自己の動作主性の理解と母子遊び場面での子の応答性の間に有意な相関が見いだされた($r=.52, p<.01$)。また、子どもの心理社会的理解語彙の総数と応答性(冒頭の働きかけに対する)との間にも有意な相関が見られた($r=.56, p<.01$)。より高いレベルで自己の動作主性について理解している子どもや、より多くの心理社会的語を理解する子どもは、他者との間でより調和的な相互作用を展開している可能性が示唆された。

③母親の明確化要求と子どもの自他理解および心理社会的語彙獲得との関連:18か月時において明確化要求と自他理解、語彙獲得との間に有意な関連はなかった。ただし、子どもの叙述的伝達行動に対する明確化要求の出現頻度と、比較的高度な心的状態語(思考に関する語)の理解語彙数との間に有意な相関が見いだされ($r=.54, p<.01$)、明確化要求に対する子どもの修復と禁止に関する発語語彙数との間に相関が見いだされた($r=.46, p<.05$)。心理社会的語の獲得の基盤となるような子どもの心理学的理解を、母親の明確化要求が促し、心理社会的語彙獲得に影響を与えているのかもしれない。